

## 審査の結果の要旨

氏名 傅 舒蘭

本論文は、中国・杭州を対象に、杭州都市計画史において、都市が西湖及び周辺景勝地を計画上取り込む過程を歴史的に明らかにすることを目的としている。これによって中国古来の山水思想が都市側から見て、都市が周辺環境に対して都市を開いていくことによって山水都市というべきものを実現しているということを実証的に明らかにすることを目的としている。

論文は8つの章から成っている。

序章において、研究の目的・方法を明らかにするとともに、本論文で用いる主要概念の定義をおこない、既往研究について述べ、本論文の構成を示している。特に杭州の都市計画の歴史に関して、資料を網羅的に発掘し、史実を明らかにすることを通して上記の目的を達成しようとしている。

第1章は、中国江南の都市とそこにおける山水思想の発展経緯について主として文献をもとに明らかにし、その中での杭州の位置づけを論じている。

第2章は、南宋から元、明、清時代における杭州城の都市形成の歴史を文献をもとに総括している。同時に、西湖景勝地の形成について、唐時代以来の山水景の形成と変遷について概略的にまとめている。以上、第2章においては前近代における杭州都市計画の概要を簡潔に明らかにしている。

第3章から第5章にかけては、杭州の近代における都市計画の歴史を一時資料をもとに明らかにする章で、本論文の中心的な位置を占めている。

第3章においては、1907年に杭州に鉄道が建設されて城壁が一部開削された時点を杭州の都市の近代化の始まりと見なし、そこから初の全市的な総合計画が立案される1932年の前までを対象としている。とりわけ、新市場湖浜地区計画（1914年）及び西湖環湖道路計画（1920年）について、その内容を詳説し、これによって西湖から都市部を見る眺望点が誕生したことを明示し、都市部と西湖との接続がいかなる思想によっておこなわれたのかを明らかにしている。

第4章においては、1932年から1978年のマスタープラン策定期に焦点を当て、それぞれの計画内容を一時資料を基に初めて明らかにし、その背後にある計画思想を論じている。さらに、西湖との関係に関して、西湖風景区の建設によって周辺開発が進み、総体として西湖の風景が破壊されていった事情を明らかにしている。

第5章は、1979年以降の詳細都市計画の導入期における西湖と都市部との関係の見直しについて述べ、西湖風景の再生に関する試みを紹介している。とりわけ、都市部における高さ規制の実施や多様な視点場の導入とビューコリドーの保護などの施策が相次いで実施されていった様子を詳細に明らかにしている。

第6章においては、杭州において「山水都市」という概念がいかにして古来の山水思想から派生したかを明らかにすると共に、近代以降、山水都市の思想が都市計画の全体プランのなかでどのように具体化されてきたのかを実証的に明らかにしている。

結章では、以上をまとめ、ふたたび結論を時代ごとの自然と都市との関係のダイアグラムによって簡潔に述べている。

以上、本論文は、中国杭州における西湖との関係を都市計画史の視点から明らかにして、山水思想がどのように都市計画上、計画立案されていったかを具体的な計画図をもとに実証的に明らかにしている点で、初めての試みであり、えられた論点は今後の中国における都市-自然関係を考察する際にきわめて有用であるといえる。また、今後の中国における都市計画史研究の礎をなす論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。